

破天荒

校長 新妻 茂

よく「破天荒な人」などという使われ方をして、何となく「破天荒」の意味がわかっているような気がする人は多いと思います。しかし、平成20年度に文化庁が日本人を対象に実施した「国語に関する世論調査」では、64.2%の人が「豪快で大胆な様子」という意味に誤解あるいは誤用していることが判明しています。

「破天荒」は、「今まで誰も成し得なかったことを行うこと」というのが本来の意味です。由来は、唐の時代、荊州（今の湖北省あたり）という土地から官吏登用試験（科挙）の合格者が出たことがなかったため荊州は「天荒（未開の荒地）」と言われていましたが、劉蛻という人が初めて合格して「天荒を破った」と言われた、という故事に基づいています。

したがって、「彼は小笠原中学校開校以来、初めて東京大学に合格した破天荒な生徒です」などと言うのが正しい使い方なのです。とは言うものの、褒めたつもりで面と向かって「あなたは破天荒な人ですね」と言うと誤解を招きかねないので、「前人未踏の」「先駆者」「パイオニア」などと言い換えることが必要かもしれません。

ある特定の地域・領域等で初めてというのはある程度検証可能ですが、これが人類史上初めてなどと言うと大変なことです。人類が100億人いるとすれば同じような考え方をする人はいるわけで、その中で初めてということを検証するのはなかなか難しいことです。

今、日本の小惑星探査機「はやぶさ2号」が目的地である小惑星リュウグウに到達してまもなく探査を開始します。小惑星は地球から3億km以上離れた遙か遠くにあります。探査機が地球と小惑星との間を往復できるのは、イオンエンジンという新しいエンジンが搭載されているからです。このイオンエンジンを手にしたことで日本の宇宙探査が大きく変わろうとしています。このエンジンを開発したのが宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所所長に就任した國中均さんです。アメリカよりも20年遅れて研究開発をしたので、アメリカ方式のイオンエンジンより優れたエンジンを開発しようということで、それまで通信にしか利用していなかったマイクロ波という電波を使う方式のイオンエンジンを考えたそうです。要は電子レンジと同じ原理で、皿は温まらないが食材だけは温まるという選択的加熱を用いて電子だけを選んで温めてイオンは温めないということを狙ったわけです。温まった電子がガスにぶつかって電離が起きて冷たいイオンができればイオンエンジンを壊さないですむ、そうすれば長寿命で長く運転できるシステムが実現できるかもしれないと考えたそうです。そうは言うもののこの考えを実現するためには多くの時間がかかりました。いろいろなプレッシャーがあり、食堂に行っても食べ物が喉を通らないことがたびたびあったと言っています。「破天荒」になるためには人知れず苦勞がつきものなのだともあらためて考えさせられます。

2学期が始まりました。連合運動会、学習発表会、開校50周年記念式典と行事も続きますが、生徒の皆さんが取り組まなければならないのは学習です。いつか「破天荒」な人が出てきて欲しいなあとは小さな夢もっています。

9月の主な行事予定

3日(月) 始業式	19日(水) 芝生の日
5日(水) 芝生の日 三者面談(3年)(始) 硫黄島訪島事業保護者説明会(2年)	21日(金) 振替休業日
7日(金) 東平外来種駆除活動(1年)	22日(土) ブイフロート清掃
8日(土) 海洋センターボランティア	23日(日) 秋分の日 島しょ研修会1日目
11日(火) 保健面談(始)	24日(月) 振替休日 島しょ研修会2日目
12日(水) お弁当の日	25日(火) 連合運動会予行
15日(土) 硫黄島訪島事業(2年) 16日まで	26日(水) 生徒会役員選挙
17日(月) 敬老の日	27日(木) 振替休業日
18日(火) 振替休業日(2年) 三者面談(3年)(終)	29日(土) 運動会準備
	30日(日) 連合運動会
	※10月1日、2日振替休業日

部活動 遠征報告

女子バレーボール部

女子バレーボール部

今年のチームは、「力戦奮闘」というテーマを掲げ、島嶼大会優勝を目標に日々の練習に励んできました。今年も、多くの卒業生、地域の方々のご協力により何度も練習試合をすることができました。練習試合を通して技術面、精神面を鍛えることができました。特に、春季大会では中学生チームが優勝することができ、島嶼大会を控えたチームにとって、大きな自信となったことと思います。そして、昨年度まで小笠原のバレー部のために指導してくださった故岩本先生の言葉を心に刻み、島嶼大会へと出発しました。

遠征中は、昨年度から交流のある品川区立品川学園のバレーボール部との練習試合を行いました。他の学校とバレーを通して交流することができ、1年ぶりの再会に生徒たちにも笑顔があふれていました。品川学園のバレー部から、大会当日に応援メッセージが届き、試合前に勇気をもらうことができました。

そして、試合開始。不安と緊張を抱えながらも、自分たちのバレーにこだわり、声を出し、ジャンプをして喜び、ベンチからの声も含め、チーム全員で励まし合いながらバレーをすることができました。結果は準優勝。優勝は逃してしまいましたが、都大会へ出場が決定しました。

【島嶼大会 準優勝】対 八丈合同チーム0-2 (13-25、19-25) 対 三宅中学校2-0 (25-11、25-8) 対 新島中学校2-0 (25-23、25-16)

都大会当日は、会場の雰囲気にも圧倒されながらも、他チームと試合ができるという喜びに生徒たちも、わくわくしている様子でした。残念ながら1回戦の駿台学園に0-2 (12-25、3-25) で負けてしまいましたが、1球1球をかみしめながらバレーを最後まで楽しんでいる3年生の姿が印象に残っています。引退した3年生の思いを後輩がしっかりと引き継ぎ、今年の遠征を終えました。

最後に、バレー部の活動にいつもご協力いただき、支えていただきありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。引き続きご協力よろしくおねがいたします。

バドミントン部

バドミントン部顧問

第6回東京都バドミントン選手権大会に参加しました。7月24日に団体戦、7月27日に個人戦がありました。7月22日から内地に行き、内地の学校と合同練習や練習試合をしながら調整し大会に挑みました。団体戦は女子が出場しました。先に2セットとられ0-2で敗戦しました。その日のビデオを見ながら再度調整し、27日の個人戦に挑みました。男女ともに勝つことはできませんでしたが、大きな舞台で自信をもって勝負できたことは、きっと生徒たちにとって大きな経験になったと思います。バドミントン部の1つのテーマであった『挑戦』する姿が見られたことをとても嬉しく思います。試合や審判をして、大会の緊張感を味わったと言う生徒も多くいました。本番の緊張感をしっかりと覚えておき、3年生は高校受験で、2年生は次の大会で生かして欲しいです。

今大会では、多くの保護者の皆様、小笠原中学校のOB、OG、小笠原中学校の生徒等、多くの方からご声援とご協力を頂きました。ありがとうございました。

サッカー部

サッカー部顧問

今回の内地遠征には、父島から2年生6人、1年生4人、母島から2人の計12人で臨みました。今年は昨年と比べると早い段階で内地入りし、コンディションを調整することができました。葛飾区立葛美中学校や港区立港南中学校、前任サッカー部顧問の神田先生が指導されている江戸川区立松江第二中学校や世田谷区立松沢中学校など、たくさんの学校と練習試合等を通して交流させていただきました。

昨年度最下位という悔しい結果をバネに必ず良い結果を残そうという強い決意で島嶼大会本番に臨みました。しかし結果は惨敗。1回戦は八丈代表である大賀郷・三原中学校のパワフルなサッカーに圧倒され、0-6という結果で終わりました。相手チームの特徴を分析し、最善の対策をしたつもりでしたが完全な力負けでした。その後、今まで支えてくれて応援してくれているたくさんの人達のためにも次の試合にどのような戦いができるかが大切だということを再確認して試合に臨みました。

しかし、昨年度敗戦した相手である神津中学校に1-6という大差で敗れました。結果ほどの力の差はありませんでしたが、守りに入るのではなく点を獲りに行くサッカーで挑戦したことにより、上のような結果となってしまいました。ただ、みんなで走ってもぎ取った1点はとても素晴らしいゴールでした。

今回の大会では、結果だけみると大敗ですが、選手達は確実に成長しました。何より目の色が違いました。最後の最後まで必死に走り、格上の選手に食らいつき、みんなで声を出してゴールに向かっていく姿から、このチームなら必ず来年度やってくれるという確信に変わりました。

大会だけでなく、今回の遠征を通じて、選手達はより一層サッカーを好きになり、サッカーに対しての考えや視野が

広がったようです。この経験を忘れずに、今後の活動に生かしていきたいと思います。支えてくださった全ての皆様にこの場をお借りして改めて感謝を申し上げます。引き続きご協力よろしくお願いたします。

テニス部

テニス部顧問

硬式テニス部は8月21日に大井ふ頭中央海浜公園で、22日に暁星中学校で行われた、東京都中学校体育連盟主催の東京都中学校テニス選手権第1ブロック新人大会に出場しました。今回の大会は硬式テニス部にとって、初めての内地での大会出場でした。

これまで、村の大会に出場しても、対戦相手は高校生や大人ばかりでした。そのため、同世代の人と対戦する機会が無いだけでなく、プレイを見ることも他校のテニス部の雰囲気を感じとることすらできないのが現状でした。

今回、島の内外の多くの方々にご協力をいただき、他校のテニス部員と試合をしたり交流したりすることができました。シングルス、ダブルスとも初戦敗退という結果ではありましたが、試合の結果以上に、出場した生徒が得たものはとても大きいものであったように思います。今回の経験を糧に、さらに技術と人間力を向上させられるよう努力してまいります。

たくさんのご協力、ご声援、本当にありがとうございました。



セーフティ教室

生活指導主任

7月16日(月)に小笠原警察署から署員の方が3名来校され、セーフティ教室を行いました。SNSを通じて、犯罪に巻き込まれる中学生が増えているということを知り、クイズなどを交えて説明していただきました。また、ドラッグの危険性についてもDVDを見ながら学ぶことができました。夏休み前に犯罪に巻き込まれないためには、どうしたらよいか普段の生活を見直すきっかけになったのではないかと思います。

父母学習交流会を終えて

教務主任

7月12日から14日まで、毎年恒例の父母学習交流会を行いました。今年は、8名の母島中学校の生徒が来校し、交流を深めました。今年は、例年行っている教科での授業交流や部活動の合同練習に加え、全校での吹奏楽練習と「黒板アート甲子園」と題した黒板アートの制作、そして2年生は総合的な学習の時間で作成した硫黄島訪島事業に向けたレポートの発表を行いました。



教科での授業交流では、普段教わっている先生ではない人の授業の進め方に戸惑っていたり、吹奏楽練習では、どちらの学校であるかを問わず声を掛け合って練習する姿が見られたり、黒板アート甲子園では、グループメンバー全員で協力して作品を仕上げたり、短い時間ではありましたが、生徒たちは新しい刺激を受けることができていたように思います。同じ村ではありながら、簡単には交流できない母島中学校の生徒と、これからも素敵な結びつきを作っていきたいと考えています。

遠泳大会

保健体育科

今年度も遠泳大会が予定通り実施されました。“1時間かけて1kmをみんなで泳ぐ”ことを目標として海練習から準備を行ってきました。本番前、今一度心構えの確認をしてスタートを待ちました。少し海の状況が心配されていましたが、予定通りのスタート。入水した生徒は「さあ、いくぞ」という気持ちで次々と海中へ。遠泳中、隊列の維持はけっこう難しく、1人が少しでも遅れたり、離れたりしてしまうと前後の間隔やバディとの間隔がずれ、それが全体に広がってしまい、まっすぐで美しい列にはなりません。先輩と後輩でバディを組むことでバランスを取り合い励まし合いながらゴールを目指しました。序盤ははやる気持ちを抑えることができず、隊列の間隔が狭めになってしまいました。元々泳力のある島っ子は余裕を持って泳ぐことができるので次第に前後左右の間隔を意識し、列を整えながら泳いでいました。3年生から始まった「えんやこーらー」の掛け声は、生徒たちにとって大きな力となったことでしょう。途中、小学校時代のかげ声もかかったのですが、何事もないように元気に発声し終始リラックスした雰囲気で泳ぐことができました。ひとりの脱落者もなく全員完泳!“1時間かけて1kmを泳ぐ”という目標も達成。澄み切った青い空、透き通った海。すばらしい遠泳大会となりました。

今回の遠泳大会が、和やかな雰囲気最後までみんなが泳ぎ切れたのは、お忙しい中ご参加・ご協力くださいました多くの保護者(卒業生も参加してくれました)の方々、地域の方々、海上自衛隊、小笠原警察署、小笠原海上保安署にこ

の場をかりてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

南アルプス市 小笠原村中学生親善交流会

担当

8月15日から18日までの4日間、今年も山梨県南アルプス市の中学生との親善交流がありました。この交流は毎年中学校1・2年生が交互に訪問し、親交を深めるものです。

今年は南アルプス市から19名、おが中から11名の生徒が参加しました。

交流の内容は、歓迎交流会（食事）、ウミガメ教室、海上遊覧を予定していましたが、台風の影響で海上遊覧ができず、宮之浜やコペペ海岸での遊泳に変更されました。遊覧を楽しみにしていたので、残念ではありましたが、小笠原の美しい海での遊泳を楽しんでいました。

最初はぎこちなく会話していた生徒たちも、交流を重ねるうちに次第に会話が弾むようになりました。最終日の見送りでは、乗船するギリギリまで一緒に関わり、2年生は別れを惜しみ、1年生は来年の再会を約束していました。

短い時間ではありましたが、今回の交流を経験して、それぞれの世界が広がる良い交流会になりました。



1学期を振り返って

小笠原に来て初めての1学期は、あっという間に過ぎました。分からないことや不安もありましたが、温かい生徒や保護者に支えられ、1学期を終えることができました。小笠原の生活にも少しずつ慣れ、透き通る海、見たことがない植物や生物が生息する森、どこまでも広がる満天の星空を楽しめるようになりました。

2学期は行事もたくさんあるので、生徒の良さを引き出し、そして、小笠原の良さをさらに見つけ、公私ともに充実した日々を過ごせるようにしたいです。

小笠原での生活が始まり5ヶ月があっという間に過ぎました。この5ヶ月ほど自然を感じたことはこれまでありませんでした。海が青いこと、星がこんなに見えること、台風の進路と船が気になること、シロアリが恐ろしいこと等々。その中でも特に雨の降り方が印象的です。私は内地の時から自転車通勤をしていますが、父島に来てから雨に降られて通勤が困ることがありませんでした。降るのがほとんど夜なのです。小笠原だからなのか、海に囲まれているからなのかは分かりませんが、とにかく「自然って不思議で面白い」と思う毎日でした。

4月に赴任してしばらくは、あまりの環境の違いに現実感がありませんでした。美しい自然の中に自分が住んでいることを、今はしみじみ感じています。1学期は返還50周年記念行事や遠泳大会等行事が満載で、あっという間に過ぎてしまいました。2学期も色々な行事があります。小笠原の秋・冬も大切に過ごしながら頑張っていきたいと思います。

保護者・地域の皆様へ 小中高連合運動会について

9月30日(日)に小中高連合運動会が行われます。熱中症やけがなど、十分に注意しながら準備を進めていきます。当日の開始時刻等、詳細につきましては、後日お知らせ致します。また、リレーや綱引き等、村民の皆様に参加していただく種目に関しましては、『村民だより・9月号』で申込締め切りなどをご確認ください。